

はじめに

日頃より市民の皆様をはじめ関係者の方々には、豊田市矢作川研究所の調査研究及び運営に対し、多大なるご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。今年も当研究所の研究成果や矢作川を題材に研究された研究者の方々から投稿頂いた原稿に基づき、所報「矢作川研究 No. 28」を発刊することができました。ご一読頂き、多くの皆様に活用して頂くとともにご意見等頂ければ幸いです。

昨年の矢作川では、明治用水頭首工魚道を遡上した天然アユが約 260 万尾と近年まれにみる数で、上流域まで多くのアユが到達しました。6 月初旬の大雨を除いては大きな洪水もなく、数年ぶりに川の状況が良く、全域にわたってアユ釣りが好調だったようです。当研究所の川での調査も概ね順調に実施できましたが、川の状況というのは、当然毎年違いますので継続的な調査データを得るには困難が伴い悩ましいところです。

昨年は、台風の発生数と上陸数が平年値より少なかったといわれていますが、全国的には台風や梅雨前線による記録的な大雨となり、各地で河川の氾濫や土砂災害による被害が発生しています。治水と環境を両立した流域治水の取り組みを推進しなければなりません。

今年は、当研究所が創立 30 周年を迎える節目の年となります。地域に根差した研究所として、これまで矢作川流域をはじめ市内の自然環境や人文的・科学的な研究実績を積み重ね、その成果を公開し、関係機関や各種市民活動団体等の皆様との連携し、現場での実践を通して課題の解決に向け邁進してまいりました。30 年という過去を振り返り今後の活動に活かしていかなければなりません。矢作川研究所は、引き続き矢作川流域を始めとする市内河川のより良い環境の創造を目指して調査研究を進めてまいります。今後とも皆様のご指導、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

令和 6 年 1 月

豊田市矢作川研究所 所長
宮田昌和